

は　じ　め　に

北海道優良米生産出荷共励会は、本年で52回目の開催となり、この間関係の皆様には多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。

平成26年の水稻作況は、全道平均収量が577kg/10a（指数107）で、4年連続の豊作となりました。水稻の生育は、融雪後の好天で圃場が良く乾いたことと移植後の高温・多照により、旺盛な初期生育でスタートし、不稔発生も少なかったため、過剰な稔実朮数となりました。一方、8月中旬以降は日照時間が短く気温も低下したため、登熟が緩慢となり、未熟粒・死米等が多発生し、玄米品質や製品歩留が低下しました。食味関連形質ではアミロース含有率が昨年より高い傾向でしたが、精米タンパク質含有率は昨年より低く、食味は概ね良好でした。

また、「ゆめぴりか」「ななつぼし」が平成26年産米においても日本穀物検定協会の米の食味ランキングで特Aに評価されました。道内食率については量販店等における安価な府県産米の影響により、昨年から若干減少したものの、89%の高い食率を維持しています。

一方でTPP交渉の進展や米政策の見直し、少子高齢化、人口減少による米の需要減少等により、米の生産・販売を取り巻く環境は一層厳しさが増しておりますが、北海道米の評価向上に向け、さらなる生産技術の向上を図り、継続した良質・良食味米の安定生産に努めることが重要です。

さて、本年の共励会については、従来からの「移植栽培部門」に加え、本年度から新設した「直播栽培部門」において合計15件の参加出展を頂きました。

これらについて1月21日に審査委員会を開催し、部門毎の賞を選考し、1月27日～29日、および2月3日に現地調査を行い、各賞を正式に決定致しました。

ここに第52回(平成26年度)北海道優良米生産出荷共励会の審査概要および最優秀賞受賞の方々の米作りと経営についてご報告しますので、平成27年産以降の良質・良食味米安定生産の参考にご活用頂ければ幸いに存じます。

最後になりましたが、本共励会の実施に当たり多大なご協力を頂いた関係各位に対しまして、改めてここからお礼申し上げます。

平成27年3月

一般社団法人 北海道米麦改良協会